

和歌と「歌枕」

田子の浦に うち出でて見れば 白妙の 富士の高嶺に 雪は降りつつ
山部赤人

(現代訳) : 田子の浦に出かけて眺めると、真っ白な富士の山頂に
雪が降り続けていることだよ。

駿河湾に富士山は、日本の代表的風景です。11月になると富士山の冠雪も見られます。この原歌は、『万葉集』の「田子の浦ゆうち出でて見れば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける」です。「田子の浦ゆ」は「田子の浦を通過して」、「降りける」は「降り積もっていたことだ」という意です。その後、『新古今和歌集』で、今の形となりました。「雪は降りつつ」の「つつ」は、反復・継続を表す助詞です。実際には、田子の浦からは、山頂の雪が降り続けている様子は見えないはずですが、臨場感あふれる印象的な表現ですね。

「田子の浦」や「富士」のように古くから和歌に詠まれている名所・旧跡のことを「歌枕」と言います。当時の富士山は、活火山で噴煙を上げていました。歌枕を訪ね、当時の情景を思い浮かべながら作品の世界に思いを馳せるのも和歌の楽しみ方の一つですね。

小野田高等学校小倉百人一首かるた部顧問 青池のぞみ